



創立 昭和34.6.9 承認 昭和34.6.27
 事務局 鶴岡市馬場町 鶴岡商工会議所内
 電話 0235 (24) 7711
 例会場 鶴岡市馬場町 産業会館5階ホール
 例会日 毎週火曜日 午後12:30~1:30

第1471回例会 会報

1988(昭63.8.23) 天候 晴

幹事 若生恒吉
 会長 市川輝雄
 クラブ奉仕 佐藤 昇

ロータリーに活力を
 あなたの活力を
 PUT LIFE INTO ROTARY-
 YOUR LIFE

職業奉仕 佐藤 衛 社会奉仕 迎田 稔
 国際奉仕 松田士郎 青少年奉仕 碓水節雄

出席報告：会員 83名 出席 63名

出席率 77.14% 前回出席率 58.57%
 修正出席 67名 確定出席率 82.86%

会長報告

市川輝雄君

昨日は一部にわか雨がありました。連日30度を越す暑さが続いて、平年より5度以上気温が高いそうです。「暑き日を海に入れたり最上川」芭蕉の句が実感としてとらえられます。

先日、ニュー・ブランズウィックのリンチ市長が亀屋ホテルで夕焼の海を眺め、ビューティフルを連発していましたが、日本海の海夕焼は全国でも有名です。海風と陸風が押し合って平衡を保った気流の状態が、美しい夕焼現象の生れる秘密だとされています。団々たる落日が極限の大きさになって水平線に沈み、山も、港も、松林も、人の心まで真紅になるこの壮大なパノラマを一度、船の上から眺めてみたいと思うんですが……余韻を残した茜色の残照をみれば、人生の終焉もまたかくありがたいものとロマンティックな気分になります。

- 会員の忠鉢徹君のご母堂が急逝され、21日、湯田川長福寺にて葬儀が営まれました。クラブを代表して私がお焼香して参りました。謹しんでご冥福をお祈り申し上げます。
- 9月24日、米沢において行われる地区情報セミナーに、高橋良士会長エレクトと佐藤忠ロータリー情報委員長のお二人が参加することになりました。大変ご苦労様ですが、よろしく願います。
- 本日の例会プログラムは第2回クラブフォーラム社会奉仕部門であります。前回に劣らぬ成果のありますよう皆様のご協力をお願い致します。

幹事報告

若生恒吉君

忠鉢徹君より御母堂様の御死去会葬御礼の葉書が到着しております。

IGF特別委員会

佐々木詰彦君

第1回打合せについて
 例会終了後8名の方で実施。

スマイル

- 若生恒吉君 先般の例会の途中で退席したお詫び。
- 吉野 勲君 8月9日の会長・幹事の慰労会に多数出席して頂いたので。
- 松山俊三君 ニュー・ブランズウィックのリンチ市長一行が来訪された際、妻の贈り物が喜ばれた。
- 佐々木詰彦君 お盆が終わりました。
- 松沢主一君 ゲストスピーチの会報掲載が遅れました。
- 板垣広志君 吉野さんと同じ。
- 忠鉢 徹君 母の葬儀に対してのお礼。
- 荘司嘉男君 母が米寿の祝いをしました。
- 荒井宏明君 二泊三日で初めての韓国ツアーを楽しみました。

ビジター

鶴岡西R.C 古川陽一君、成田邦夫君

ロータリアン日記 ○月○日

ササコニシキ

米の名称は、品質、価格等と共に、売れゆきに大きな影響力を持っている。新潟県のコシヒカリ、宮城・山形両県のササコニシキは、名実共に好評である。しかし、どの品種にも寿命のようなものがあり、いつかは他の新しい品種によって更新されるときがおとずれるといふ。

最近、売り出し中の新品種が、秋田県産のアキタコマチ。クレオパトラ、楊貴妃と並ぶ世界の三大美人、小野小町(秋田県出身)にあやかる名称で、実に響きが良い。同じ米どころ山形県にとっ

ては、実に気にかかる隣県の動きである。

そこで登上したのが、庄内32号に命名の内定したハナノマイ。ハナは県花「紅花」に由来し、マイは舞いと米に重なるしゃれた名称である。ひと頃のヤマアサヒよりも、はるかに響きが良い。

ハナノマイに続く次代の新品種用として、ササコニシキという名称は如何であろうか。コニシキからは人気の大関小錦の明るさが湧き、コからは子と可愛らしいという意味も伝わってくる。

イネの品種改良には、林木と同じように、息の長い道程があるにちがいない。その地道な努力に報いるためにも、アキタコマチに勝るとも劣らぬ響きの良い名称を使いたいものである。

山形大学農学部 塚原 初男

「庄内における農作物のバイオテクノロジー」について

山形大学農学部教授 笹原健夫氏

只今、過分のご紹介をいただきました笹原です。よろしくお願ひ致します。偉い先生方の前で話す機会を与えていただき誠にありがとうございます。

私は品種改良の分野をやっております、特に得意の分野は多収性という分野でございます。収量をどうやって上げるかの研究をやってきました。バイオテクノロジーについては、研究室の若い人にやらせています。

今日は「庄内における農作物のバイオテクノロジー」というテーマですので、どんな可能性があり、実際どんなものが出来ていたかをご紹介します。

先程紹介ありましたシオデのバイオテクノロジーについては、今の技術で行きますと資源保護というような分野に入ります。シオデは若いうちに根際から取りますとなかなか再生出来ない、非常に弱い植物であります。従って流通過程に殆ど出まわらない。庄内地方でも殆ど売られていない。また、地域おこし・村おこし等を取りはじめますと多分なくなるであろうという事で始めたものです。

たまたま麻布獣医大で出身の田沢先生と一緒にやっております、先生は獣医でもあられるので、無菌と言うか、消毒が非常に上手な方で、増殖率も良く、現在産業化されるのも最近からではないかと思ひます。

また、我々の周囲を見ても、資源自然がなくなりつつあるものがいっぱいあります。例えば、春になるときれいな花を咲かせるイヌツツジなんかは今は殆どない。聞くところによりますと、トラックで根こそぎ持って行ってしまふ始末である。そんな事で、多分注意してきていると資源が遂次無くなって行く、それが村おこし、地域産業発展につながっていかれば良いのですが、不幸にしてそういう方向でないような気がします。そういう分野を将来新しい技術で、試験管の中や研究室で一定の定温室があれば、そこで長期間保存出来ると言うようなやり方で資源保護が出来るであろうという事が考えられます。それがバイオテクノロジーの大きな眼目であると思ひます。

それからもう一つは、バイオテクノロジーの大きな眼目は有性生殖の限界を超えたという事です。従来は雄と雌をかけ合わせて品種改良を行ってききましたが、現在は根から取っても、葉から取っても、莖から取っても良い。要は細胞が取れば良い。その細胞を取りましてAという植物作物、Bという植物作物、又は遠縁のもので性的な障害、バリエーションが有性的には交配出来ないものを試験管の中で交配出来るという事で、新しい作物が出来る可能性が高くなる。高いというのは従来人類が作っていたもの、それがようやく出来たところだと思ひます。

例えば、ドイツのマクスプランクのメルヒヤーズという人が作ったポマトが有名である。トマトとじゃがいもはナス科で非常に近い仲間である。別に融

合しなくてもじゃがいもは根が肥大し実もなる。それから良く話題になります白ランと言うのは白菜とキャベツと一緒に食べようという事です。これは有性的にも出来ます。交配しまして、小さい胚の段階で試験管に取り出して人工的に栄養を与えてやりますと伸びまして、白ランになるわけです。有的に作ったのが白ランです。自然にも同じ仲間に西洋ナタネがあります。つまり、自然にあったものを結球させたものが白ランです。

本当に新しいものを作ると言うものは、今のところ成功していない。「稲と稗」の融合もどこかで成長が止まってしまいました。まだ人類史上新しい作物は完全に出来ていない。あまりにも抜本的なものはない。

さて、庄内むけに話をもどして、

1. ほうれん草は修酸カルシウムが非常に多く胆石になりやすい。ほうれん草の細胞をバラバラにしてストレスをかけて、修酸の集積しない細胞を取り出して植物体を作る。また、ほうれん草は酸性土壌に弱く、作りにくい作物である。これを耐性選抜によって酸性に強いほうれん草を作る事が出来る。
2. 空中散布をしなくても、イモチ菌や病菌に対する選抜も試験管の中で早いスピードで簡単に出来るのじゃないか。
3. 稲は特異な作物である。世界の主要作物は乾燥地での作物で水を与えれば収量が上がる。しかし稲は水田作物であり、いつでも葉の気孔が開いて水や炭酸ガスの出入りが容易で、水分が蒸散しても根には水分が十分ある。しかし夏に高温になると還元という現象が起き、バクテリアが土壌酸素を食べるので根が腐る。還元に対する抵抗性の強い選抜をやろうとして、ようやくカルスという細胞から癌状態になったカルスを取り、還元強いカルスを作り、植物体を作る。この問題が克服出来れば収量が上がると思ひます。

畑作物は開花期に植物体の生理活性が最高になる。一方、稲は夏の高温による土壌の還元のため植物体の生理活性は開花期一ヶ月前であり、開花期には生理活性は低下してしまう。そこで還元抵抗性の強い稲を作ればこの問題が解決され、米の蛋白質含有量も高まることになろう。

以上で時間になりましたので、終る事に致します。ご静聴ありがとうございました。

※ 前々会の時のスピーチです。遅くなりました事をお詫ひ致します。

9月6日のプログラム予定

○新入会員スピーチ 小松 稔君